

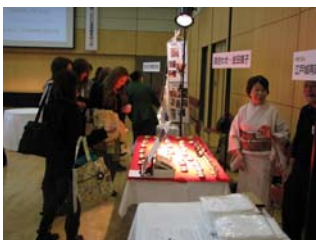
NPO 江戸城再建を目指す会、平成 20 年 11 月 7 日、

会員総数 1000 名突破を祝う会

を盛会裡に挙行、参加者総数約 250 名！

11 月 7 日、私たちの会の会員数 1000 名突破を祝い、且つこの草の根運動の輪を更に広げようという「祝う会」が、創設されたばかりの観光庁、千代田区議会、並びに千代田区内の民間諸団体など、各方面からのご来賓をお迎えし、六本木ヒルズ ハリウッド・ビューティー・プラザ 5 階の大ホールで開催されました。約 250 名もの方々が参加され、初めて紹介された(株)森ビル提供の「江戸城天守閣のある東京(千分の 1 模型写真)」をイメージしながら、**第 1 部**のファッション・エッセイスト、フランソワーズ・モレシャン女史の記念講演で日本文化の素晴らしさを再認識し、**第 2 部**のパネルディスカッションでは、私たちの運動の輪をどのように広げるかを考えました。**第 3 部**の懇親会場は、会員制作の「貝合わせ」、手作りペン、出版本、絵画の出展や、出版社と NPO の出展、並びに当会の江戸城天守閣模型の出展などで彩られ、参加者は手品や獅子踊りを楽しみながら参加者同士の懇親を深めることが出来ました。

私たちの会は、「江戸城を再建して、この国を夢と希望、自信と誇りを持てる国にしていきたい」との志を持つ民間有志によって、2004 年 12 月任意団体として活動を開始し、2006 年 3 月に東京都認証の NPO 法人となりました。その時の会員数は約 300 名でした。**江戸城再建という壮大な夢を実現する力は、これを願う人の数です。**これまで、江戸城と江戸時代に関わる歴史や伝統、文化を楽しく勉強しながら、国民各界、各層の理解と支援の輪を拡げる活動を続けました結果、この 2008 年 10 月、会員総数が 1000 名を突破しました。この 1000 名突破を踏み台に、江戸城再建を実現するため、「会員一人が知人の二人に夢を語って新たな会員になっていただく！」、このような会員一人一人の働きかけを通じて、会員数を三千、五千、一万人と増やし、現在の草の根を国民運動に発展させようとしています。モレシャン女史も記念講演の中で、「(日本の歴史と文化を後世に伝える)江戸城再建は素晴らしい、私もメンバーになりたい、お手伝いしたい」、と熱っぽく語られていました。(記念講演、パネルディスカッション、懇親会の概要は次ページ以降)



第1部 記念講演「日本のお蔭で・・・」 フランソワーズ・モレシヤン女史 (ファッション・エッセイスト)



日本の伝統と文化、とりわけ日本の美意識は世界で一番かも知れません。日本の美の元は「素朴」、シンプルさにあります。つい先だってフランスに帰国し、ヴェルサイユ宮殿でバロック音楽を聴いてきました。聴きながら天井や壁を見たら、キンキラキンで、たくさんの絵などの装飾がなされている、何故、そんなにデコレイト(decorate)するのか、と思いました。40年も日本に住んでいるので、日本人のセンスになっているからなのでしょう。

日本の美しい伝統と文化を、後世に語り伝えて・・・

平均的日本人はこの前の敗戦で全てアメリカ礼賛になってしまったように思えます。フランス人がフランスを自慢するのは自然なこと。フランス人は戦争に負けても地下に入ってレジスタンスします。フランスを自慢することを止めません、捨てません。日本は戦争に負けて、なんで日本の良さまで捨ててしまうのでしょうか？昔のものをすべて残せと言っているではありません。良いもの、生かすべきものは大切に生かして後世に伝えるべきではないでしょうか。



フランス人は本当にフランスが好きで、大人は子供にフランスの文化や歴史を伝えるのが好きです。私のお母さんも私をよくヴェルサイユ宮殿やルーヴル美術館に連れて行ってきて、フランスについていろいろと話してくれました。このような環境で育った私が大人になった時、フランス人としての美意識や西洋についての美意識、感覚、考え方を蓄積(accumulation)していました。

一輪の花に托された奥深い、シンプルな美しさ、侘び(わび)・寂(さび)の心

私が日本に来たのは22歳の時でした。私が最初に住んだ小さな家は目黒の大鳥神社の近くにありましたが、家の一つ一つの作りに感激しました。こじんまりした小さな庭、その飛び石、苔、黒い紐で結ばれた竹の塀、7本の竹林、一本の楓、一本の桜、一本の柿、……。これまで私に蓄積された美意識の対極にあるシンプルさに胸打たれました。お箸、お匙、お椀など、シンプルな美しさの備わった素晴らしいものが日々の身の回りにあります。フランスの花瓶に生けられる花はたくさんですが、日本では花一輪、その一輪の花に秘められた深い美があります。茶室の低い入口、万人が等しく頭(こうべ)を垂れて茶室に入ります。そこには、平らかな心、礼儀、謙虚さがあります。障子や簾(すだれ)は空間を曖昧に仕切ります、そこには、外と内とのそこはかたない静かな心安まる「つながり」と「空間」があります。

日本に来て、日本の伝統、文化、美意識を知らなければ、日本で生きていけない、と思い、日本のことを勉強しました。そして、日本の伝統、文化、美意識の素晴らしい一番深いところに、侘び(わび)・寂(さび)の心があることを教わりました。私は、日本のお蔭で、侘びと寂を知ることができました。

以前、私はある女子大学で200人の学生に教えていましたが、侘び、寂を知っている学生は皆無、と言ってよいでしょう。これは、日本をこよなく愛する外国人の一人としてとても悲しいことです。日本の若者の頭と心に侘び、寂を入れてあげないと、本当の日本人にはなれません。自分の国の文化と歴史の中にルーツ(roots)を持たない人は浮き草であり、根のない木と同じで、嵐の時は倒れてしまいます。

21世紀の世界に相応しい美意識は何か、それは素朴さであり、侘び・寂ではないでしょうか。日本の歴史と文化を後世に伝える江戸城再建は素晴らしい。江戸城再建をきっかけに、侘び・寂の心を忘れた多くの人たち、特に若い世代に思い出していただきたいですね。私もこの江戸城再建を目指す会のメンバーになりたいし、お手伝いしたいと思います。(文責：金成秀幸理事)

第2部 パネルディスカッション、テーマ：「江戸城再建への仲間づくり、江戸城天守閣再建を夢みた理由は・・・、その夢を実現するための仲間づくり、私はこのように考える・・・」

パネリストは、皆さん当会の会員で、元毎日新聞役員の中島健一郎さん、落語家の金原亭伯楽さん、日青木材社長の青木行雄さん、ロックスタッフ専務の坂本宣子さん、そしてコーディネーターは当会理事の百瀬光正さんというメンバーで、熱のこもった議論が展開されました。そのポイントは以下の通りです：

(・・・私が江戸城再建を夢見た理由・・・)

百瀬さん：私は江戸城再建を夢見ている男です。五木寛之さんの「林



住期」には、古代インドでは人生を「学生期」、「家住期」、「林住期」、「遊行期」の四つの時期に分けて考えていたと書かれています。私もそうですが、本日お集まりの方々には林住期を迎えられている方が多いと思います。一番社会で中心になって家庭を作り働いている時を家住期、それから社会人としての務めを終えたあとの人生である林住期。そして全ての締めくくりをする「遊行期」。遊行期の前のこの林住期をどのように過ごせばよいのか。私は江戸城再建という夢も持って一生を終えたいと考えています。本日は同じ夢を共有する皆さんと「江戸城再建への仲間づくり」を熱く語り合えれば、と思います。それでは、先ず、江戸城再建を夢見たわけをお話し下さい。

中島さん：僕は昭和19年生まれで、先ほどモレシヤンさんが言われたように、戦争に負け、アメリカに追いつき追い越せで、日本の良さがある意味で忘れて遮二無二に働いて来ましたが、2年前、毎日新聞社を退任する際、このままでいいのか、と自問しました。



日本の都会の現代住宅は30年もすればガタビシするお粗末なもので、健康にも悪い化学材が使われています。日本の伝統的な木構造建築の家は、モレシヤンさんが紹介された障子、簾、左官壁、土壁等々、素晴らしものを組み込み、しかも、以前開催された増田先生の江戸城再建セミナーで、法隆寺に実例があるように日本の伝統的な木造軸組建物は丈夫で長持ちする、ということを教わりました。いつしか、日本は日本の良さを忘れ、捨ててしまっているのではないかと、今までのマンション暮らしをやめ、土壁、左官壁の日本家屋を作って住みたい、と考えるようになりました。そこで出会ったのが江戸城再建プロジェクトで、私は直ぐに会員になりました。

会員になった理由は、田舎で土壁・木構造の家を作る勉強のために大工さんや左官屋さんに会うと、皆60歳代の人で、若い人がいないんです。後、10年経ち、この人たちが70歳、80歳になった時、この人たちが持っている技術は誰にも伝承されない。だとしたら、若者が伝統技術を学ぶチャンスを作るしかない。江戸城天守閣がコンクリートではなく、60メートルの建物を木組み、土壁、左官壁で再建すれば、日本中の匠、職人の人たちが集まって働く。こういうシンボリックなことをすると、日本中のいろいろな伝統技術を持った匠や職人の人たちへの大きなプレゼントになり、励みになるのではないかと。これを見た若者は、自分たちもやってみようということになるのではないかと。

江戸城再建は、単にお城を作ることだけではなく、日本の伝統技術の伝承を励まし、育てることになる。つまり、若い人が続こうと思っても、その仕事がなければ食えないわけだから、後に続こう、ということにはならない。江戸城再建プロジェクトによって、日本の匠さん、宮大工さん、左官屋さんの技(わざ)を日本の中で再認識してもらい、しかも、その仕事に従事することで食えるようにする、そうすれば日本の伝統技術が次の世代に伝承される、という素晴らしい面があると思ひ、この運動に参加した訳です。

伯楽師匠：この会への入会を勧められた時、私は古典芸能、まして江戸時代の話をよくするものですから、江戸にシンボルがないこともあり直ぐに同調しました。それに、今の日本では古典落語をマスコミはほとんど



ど取り上げてくれません。民放はゼロ、NHKだけ「日本の話芸」という30分番組を放映してくれているのですが、残念ながら時間帯があまり良くない。再建江戸城の中に、古典芸能は何でも上演できるホールができたらいいなー、と思って参加しました。白鷺城、高知城、松本城に行きましたが、お城はシンボルとしていいですね。寄席で江戸っ子の話をしますが、その時、皇居の中に江戸城の天守閣があったことを知ってる人、と聞きますと、まず、二人か三人しか手が上がりません。そこでこれこれこういう訳でありまして、それが明暦の大火で無くなりました、今、江戸城再建を目指している会があります、その会の入会申込書も出口に置いてありますので、会の趣旨に賛同される方は是非入会してください、と言うのですが、まず入っちゃあくれません。

考えてみれば、江戸は徳川家康さんが入城してから、全国いろいろなところから職人が集まって作り上げた町なんですよ。今の東京を考えたって、江戸に3代住んでいる人はほとんどいないんじゃないですか？だから、江戸城はいいなーと思うけど、自分の故郷のシンボルという感じがしない、だから会員になって一緒に江戸城再建を目指して頑張ろう、という気になってもらうのはなかなか難しいんじゃないですか。私に何ができるか？安い寄席を開いて会員の方に聞きに来ていただければ、厳しい会の懐具合にも少しはお役に立つでしょう。私がやるんだから安っぽい芸はやりませんよ。私の眼の黒いうちにできるとは思いませんが、この夢はいいなー。お手伝いさせていただきますよ。

青木さん：私は、準備に四年、建築に4年、8年あれば江戸城天守閣は再建できる、と材木屋の一人として思っています。日本に天守閣、または天守閣らしきものは約40か所あると言われていますが、私はだいたい行きました。天守閣に登って見る町の眺めほど素晴らしいものはありません。姫路城、大阪城もかなり高いお城ですが、江戸城の天守閣はもっと高かったわけで、丸の内の前に降りて江戸城が聳えていたら景観は大きく変わりますよね。江戸東京にないのは天守閣だけ、後はだいたいほとんどあります。



皆さん一緒に、夢なんて言わずに、なんとか作りましょうよ。

よく聞かれるんです、材木はそろわないんじゃないか、と。お城は櫓（けやき）で作られていますが、櫓が十分になくとも材木はたくさんあります。足りなければ外国から持ってくればいいだけの話です。小さな木を寄せ集めても江戸城はできます、建築家にも確認しました。夢は持ち続けければ必ず叶います。20年も30年も先では夢が遠すぎる、なんとか10年、そうです、頑張れば2016年のオリンピックの年にできますよ。やりましょうよ！

坂本さん：私は江戸時代には内藤新宿と言われていた今の新宿で生まれ育ち、3代続いた江戸っ子の一人です。この会が出来る前に、新宿のある会での小竹理事長の熱く素晴らしいお話をお聞きし、いっぺんに感激して直ぐに、入会させてくださいと申し出ました。女性の私がこのような壇上にいるのも、私が古い会員だからかと思えます。現実には、青木さんのようなわけにはいかないと思っている一人です。この夢は、孫子の代まで持ち続けられる、それはそれは大きな夢ではないかと思ひ、持たせていただきました。このような夢を叶える力というのは、同じ夢を共有する者たちが、みんなで頑張ればその力はものすごく大きなものになるのではないかと思います。諦めないで、夢を信じて、皆さまと歩んでいきたいです。先日、澤地久枝さまがある講演で、小田実さまは生前、「夢を見る勇気のないものには戦う力がない」とよく言われていたと、紹介されていました。私はこのような大きな夢をどうか実現できるように、1人でも多くの方と語っていきたく思います。



（・・・その夢を実現するための仲間づくり・・・）

百瀬さん：夢を持つに至るいきさつはそれぞれ異なりますが、皆さん共通の夢をお持ちです。それでは、その夢を実現するための仲間づくり、どうしたら仲間を増やせるか、中島さんからお願い致します。

中島さん：僕は土壁、左官壁、というものに惚れこんでいますんで、江戸城再建プロジェクトの傘下に土壁や、木材、江戸文化などいろいろな研究会を作って、そこで皆が集まって勉強できればいいな、思っています。僕は土壁研究会を作って、少しずつ呼びかけているのが現状です。

僕は足立区にある東京都職業訓練学校に行ったことがあります。そこでカリスマ左官と言われていた久住章（くすみあきら）さんによる竹木舞の編み方講習会が開催され、左官屋さんが高齢化し始めているとはいえ、それを志す若者たちが全国から集まりました。一生懸命やっているその青年たちが実にいい顔をしているんです。私は事件記者もりましたが、最近の世相ですと、交通事故で人を跳ねておきながら何キロも引きずって殺したり、今の日本の若者たちの心は、一体どうなっているのか案じられます。若者が、もっと日本の職人さんや匠の技を尊敬し、自分も学ぶことになると、価値観の大転換が起こるのではないかと。江戸城再建への運動が、そういう若者の価値観の大転換に寄与し、今までの生き方をチェンジするきっかけにする、このように位置づけ、今後とも呼びかけていきたいと思っています。

青木さん：マスコミさんをお願いしたりしてどんどん宣伝することも重要だと思います。この入会申し込み用紙はおそらく30円か50円くらいかかっているのではと思いますが、30人位の会合で30枚配ったとしてもせいぜい一枚か二枚しか返って来ません。ある段階では署名運動することが必要になると思いますが、現実の問題としては、関心がないと言ったらもったいないから渡しません。入ってくれそうな人には渡して説明し、後日、「どう、入ってくれた」、と言いながら進めていかないと、草の根運動は実現していかないと思います。一人一人の心に入っていないとうまくいかないと思い、それを実行しています。

坂本さん：私は、このような会は無理やり、義理で入るのでは夢って見れないのではと思います。同じ夢を見れる方に賛同して入っていただいております。今日、たまたま着物を着て出て来ましたら、友人から「どこ行くの」と聞かれ、会のパンフレットを見せて説明しましたところ、「そんな素晴らしい夢、私も入るわ」といって直ぐその場で入会してくれました。このように、ごくごく単純なやり方でやっております。多くを配ってもなかなか思うようには参りません。

伯楽師匠：寄席で落語を聞いて腹を立てて帰る人はまずいません。ただ、落語を聞くきっかけがない人が大変多ござんす。たくさんの方々が、「楽しい落語の会をこの江戸城再建を目指す会が主催するんだけど一緒に行ってくれないか」、と誘えば、会に入ってくれる人が増えるんじゃないかなー、と期待しています。

百瀬さん：最終的には、自分の人生は自分で決めるのですが、幸せな人生を送るには夢を持つ、その夢は人それぞれいろいろなものがありますが、少なくとも本日お集まりの皆さまは江戸城を再建しようとする夢をお持ちではないかと思えます。その心をぜひ他の人にもお伝えいただければと思います。皆さんに入会申し込み用紙を一枚お配りしてありますが、ご自分のお仲間、奥さまやお子様に、「こんなことで一緒に夢を見ない」と語りかけていただけたら、と思います。

実は、本日この会に出席するために、わざわざ北海道の札幌から来られた方がいらっしゃいます。（ここで会場から鹿野満渡さんが両手を挙げて起立され、参加者の万雷の拍手で迎えられた）

（文責：金成秀幸理事）

第3部 懇親会 「江戸の夕べ」

懇親会は、小竹理事長の開会の挨拶で始まり、ご来賓の、観光庁観光地域振興部の大黒伊勢夫部長、千代田区議会の高山はじめ区議会議員、太田道灌公第18代ご子孫の太田資暁氏からご挨拶をいただきました。また、三好勲氏の手品、喜楽連の獅子舞が披露されました。会場には、次の方々の出展があり、懇親会に彩が添えられました。



ハリウッドプラザホール



受付風景



DIY工房 IZUMI (左)
栞人文社 (右)



喜楽連



懇親会風景



日本文化体験交流塾



懇親会風景



懇親会風景



貝合わせ：金田園子氏



斉藤秀夫城郭巡りの旅



三好 勲氏



さいとう工房